

第1学年 国語科

児童の実態（7月現在）

<実態の分析> 観点別結果の分析

- [関心・意欲・態度] 音読発表や、自分で考えて書いた文などを、みんなの前で発表したいという気持ちが前面に出ている児童が多い。
- [話す・聞く] 姿勢や口形、声の大きさや速さに気を付けて、はっきりと話そうとする児童が多い。数名、みんなの前で話すことに抵抗を感じている児童がいる。
- [書く] 楽しかったことや出来事を2,3文の簡単な文で表すことはほとんどの児童ができている。
- [読む] 語のまとまりや言葉の響きなどを楽しんで、音読ができています。読書を進んでできる。場面の様子や、登場人物の行動を想像しながら読み進める児童が多いが、想像できない児童が数名いる。
- [知識・理解・技能] ひらがなの読みは正しくできている。正しい筆順や、字のバランスをとって書くことが難しい児童が数名いる。助詞を文の中で正しく使うことや、促音・拗音などの表記が不完全な児童がまだ多い。

<指導方法の課題>	<具体的な授業改善策>	<補充・発展指導計画>
[課題設定] 1年生は集中できる時間が短いので、児童の興味・関心を引きつけられる課題、意欲を持たせる課題の設定に今後も工夫が必要である。	[指導] 毎時間のねらいを具体化して明確にし、課題の達成感をもたせるようにする。	[補充的な学習指導] 小テストや視写などを繰り返し、定着を図っていく。 個の状況に応じては、休み時間や放課後など個別指導を行って補っていく。
[学習形態] 一斉指導の中で、個人差をどのように埋めていくか、個別対応しつつ全体を見ていきたい。小グループでの活動を取り入れていく。	[学習形態の工夫] 2人組、4人グループなど活動内容に合わせて効果的な形態を取り、児童間での学び合いができるようにしていく。	[発展的な学習指導] 児童の学習の状況に応じて繰り返し反復練習ができるプリントや発展的な学習シートを取り入れていく。
[発問・指示・板書計画] 発問、指示は短い言葉で分かりやすく伝える。繰り返しての指示から、一度きりの指示に徐々に切り替えていく必要がある。板書やPCなどで、学習の視覚化を図る。	[発問・指示・板書の工夫] 1時間が終わったときに思考の流れが分かるような板書を工夫していく。児童の多様な考えが引き出せるような発問を工夫する。	
[教材の活用] 児童が興味をもって取り組めるように教材探しや開発が必要である。	[教材の工夫] 計画的に準備をし、視覚的に、具体的に活用できるものをそろえていく。	
[評価の方法] 座席表等を利用して個別の児童評価データを増やし、授業に活用する。	[評価の工夫] 児童に学習内容が身に付いたかどうか常に確認し、次の授業に生かすようにする。	

<評価・修正>

[評価]それぞれの単元のためあてに沿ったワークシートを工夫したことで、効果的に読み取りや作文を進めることができた。漢字のプリントに繰り返し取り組むことで、正しい漢字を覚えることができるようになった。

[修正]話し手を見て、内容を理解しながら聞くことができる手立てを開発し、身に付けさせたい。

第1学年 算数科

児童の実態（7月現在）

<p><実態の分析>観点別結果の分析</p> <p>○〔関心・意欲・態度〕ブロック操作や時計の操作など具体物を操作しながら、考えようとする。また、問題の出し合いなどでも友達と関わりながら意欲的に学習に取り組んでいる。</p> <p>○〔技能〕20までのたし算、引き算が身に付いてきたが、文章問題になると立式が難しい児童がいる。場面を想像し、立式する力を伸ばしたい。</p> <p>○〔思考・判断・表現〕20までのたし算引き算の問題作りや、数の合成等について場面や合成する数を自分で考えて表現できるようになってきた。</p>

<指導方法の課題>	<具体的な授業改善策>	<補充・発展指導計画>
<p>[課題設定]</p> <p>1年生の児童が興味関心を持続させる具体的な課題の工夫が必要である。</p>	<p>[指導]</p> <p>各時間ごとの目標・課題を明確にする。</p>	<p>[補充的な学習指導]</p> <p>ひと桁同士の足し算、被差数20までの引き算が全員に定着するように毎日少しずつ、計算ミニテストなどを行う。</p>
<p>[学習形態]</p> <p>一斉指導を基本とし、個別支援が必要な児童には担任や講師、ボランティアで対応する。今後も個々の習熟度への個別的な対応が必要である。</p>	<p>[学習形態の工夫]</p> <p>一斉指導を基本とし、講師やボランティアと連携し個別指導にも力を入れていく。</p>	<p>必要に応じては、支援が必要な児童に休み時間、放課後などを使って個別指導を行う。指や具体物を使って計算する児童には、少しずつ使わずに計算できるようにさせていく。</p>
<p>[発問・指示・板書計画]</p> <p>一問一答的な発問ばかりでなく、児童の多様な考えを引き出す問題も用意し発問を工夫する。さらに、考えを半具体的な図に表現して考える等の力の基礎を計画的に培っていく必要がある。</p>	<p>[発問・指示・板書の工夫]</p> <p>児童のノートにそのままつながる板書を行う。答えを求めることばかりでなく、思考過程が見えるように、板書の工夫をする。</p>	<p>[発展的な学習指導]</p> <p>一斉指導で共通課題を早く終えた児童などに、発展的な学習課題を準備する。</p>
<p>[教材の活用]</p> <p>たし算・ひき算の計算処理などは算数ブロックを使って数量的なとらえ方を理解させる必要がある。</p>	<p>[教材の工夫]</p> <p>既製のものを上手に活用しながら場に応じて具体物等の用意をしていく。</p>	
<p>[評価の方法]</p> <p>単元ごとのテストや授業中の発言やつぶやきを中心に評価する必要がある。</p>	<p>[評価の工夫]</p> <p>児童の発言をその場で評価することで、児童に自信と意欲をもたせる評価を目指す。</p>	

<p><評価・修正></p> <p>[評価] 具体物を使ったり、デジタル教科書を取り入れたりすることで、興味関心が高まり、考えて発表をする意欲につながった。プリントや補充問題に取り組むことで習熟を図ることができた。授業以外での個別学習により学習支援することができた。算数ゲーム等を取り入れ、数や計算に親しみをもって取り組むことができた。</p> <p>[修正] 考え方を図や数、言葉でノートに示し伝える力の育成が不十分であったので改善する。</p>
--

第1学年 生活科

児童の実態（7月現在）

<p><実態の分析></p> <p>観点別結果の分析</p> <p>○[関心・意欲・態度] 好奇心が旺盛で、課題意識を持って、意欲的に学習をしている。</p> <p>○[思考・表現] 学校や友達のこと、自然や生き物、季節の変化について、気づいたことや不思議だと思ったことを積極的に見つけて発言したり「見つけたよ カード」に記したりしている。</p> <p>○[気付き] 学校でお世話になっている人たちや2年生との関わりを通して、学校生活のリズムや、社会的な関わりを少しずつ広げてきている。学校にある植物の観察や、朝顔を育てることにより、成長の変化に気づき大切に育てようとする心情が育っている。</p>
--

<指導方法の課題>	<具体的な授業改善策>	<補充・発展指導計画>
<p>[課題設定]</p> <p>具体的な活動や経験を通して、児童一人一人が楽しみ、主体的に学習できる課題を設定する。</p>	<p>[指導]</p> <p>児童の願いやアイデアから学習過程をつくれるようにする。</p> <p>かかわり合いを通して気付きが生まれるようにする。</p>	<p>[補充的な学習指導]</p> <p>社会・自然体験については、校内や周辺地域で実践可能なものを多く取り入れる。</p> <p>また、地域の方々とかかわり合うように工夫する。</p>
<p>[学習形態]</p> <p>活動内容に合わせて、個・ペア・小グループ・全体等、実態に合わせて形態を工夫する。</p>	<p>[学習形態の工夫]</p> <p>活動内容に合わせた学習形態を工夫する。</p> <p>他学年、他学級とも交流する機会を多く設ける。</p>	
<p>[発問・指示・板書計画]</p> <p>簡潔で短い発問・指示を出し、視覚的にも活動が見通せるようにする。</p>	<p>[発問・指示・板書の工夫]</p> <p>児童の気付きの質を高められるような助言を心がける。</p> <p>活動の流れを示すようにする。</p>	<p>[発展的な学習指導]</p> <p>自分の思いに気付いている児童に対しては、客観的事実や自分以外の人の思いなど、より質の高い気付きができるよう、児童の思考を促せるような助言をする。</p>
<p>[教材の活用]</p> <p>活動内容に合わせた場の工夫をする。教室に限らず、校庭や体育館、けやきの森など活動の幅を広げる。</p> <p>児童が興味関心を持てるような学習資料を提示する。</p>	<p>[教材の工夫]</p> <p>児童の実態を的確にとらえ、児童の願いに応じた環境・資料を提示する。</p> <p>体験的な学習ができるような場の設定をする。</p>	
<p>[評価の方法]</p> <p>学習カード・行動観察から評価をする。</p> <p>気付きを見取ることができるような学習カードを活用する。</p>	<p>[評価の工夫]</p> <p>一時間の重点評価項目を定め、学習カード・行動観察から見とり、次の学習に生かせるようにする。</p>	

<p><評価・修正></p> <p>[評価] 体験学習を多く取り入れることで、意欲的にすすんで学習することができた。小石川植物園での自然インストラクターのお話は、植物への興味関心を高めるために有効であった。学校での生きものとふれあうことで、生命への関心が高まった。昔から伝わる遊びや冬ならではの遊びを実際に体験することで、日本の文化の良さを味わうことができた。</p>
--

第1学年 体育科

児童の実態（7月現在）

<p><実態の分析></p> <p>観点別結果の分析</p> <p>○〔関心・意欲・態度〕ボール遊びや鬼遊び、水遊びなどに意欲的に取り組み、友達と仲良く、安全に運動することができる。</p> <p>○〔技能〕ボールを投げたり、鬼をよけて走ったり、追いかけてりする動きが高まった。水慣れもだんだんとできてきた。</p> <p>○〔思考・判断・表現〕ボール遊びでは、チームで工夫しての当てに組み、友達の良い動きを真似しようとする児童もいた。</p>
--

<指導方法の課題>	<具体的な授業改善策>	<補充・発展指導計画>
<p>[課題設定]</p> <p>児童が能力に合わせて楽しめる課題を設定する必要がある。</p>	<p>[指導]</p> <p>何をする時間かを示し、意識させながら学習させる。</p>	<p>[補充的な学習指導]</p> <p>運動の楽しさを十分に味わえていない児童には、個別に声かけ・補助を行う。遊びを通して、楽しんで運動することができるように活動を工夫する。</p>
<p>[学習形態]</p> <p>内容によって、ペア・グループ・全体など体形を変える。能力別や均等分けにする等変化をもたせる。また、集団の中で課題に取り組む場面を増やし、お互いに学び合い高め合える場を増やす。</p>	<p>[学習形態の工夫]</p> <p>運動の特性に適した学習形態を適用する。能力別や均等分けなどグルーピングを工夫し関わり合いから学べるようにする。</p>	
<p>[指示・支援]</p> <p>簡潔で短い指示を出し、児童の運動量を確保する。何をする時間なのかを、実演しながら分かりやすく示す。</p>	<p>[指示・支援]</p> <p>児童の実態を的確にとらえ、学習の流れが分かるような資料やカードを使用する。配慮が必要な児童には、講師やボランティアに入っただき、安全面に十分配慮する。</p>	<p>[発展的な学習指導]</p> <p>課題を十分に克服できている児童に対しては、記録に挑戦したり、よりよい動きを目指したりするなど、運動の楽しさをより実感できるようにする。友達同士で教え合いができるように声かけをする。</p>
<p>[場の工夫・学習資料]</p> <p>学習内容に配慮し、安全に運動できる場を設定する必要がある。分かりやすい学習カードを用いる。</p>	<p>[場の工夫・学習資料]</p> <p>児童の実態を的確にとらえ、学習の流れが分かるような資料やカードを使用する。配慮が必要な児童には、講師やボランティアに入っただき、安全面に十分配慮する。</p>	
<p>[評価の方法]</p> <p>学習カード・行動観察から評価をする。</p>	<p>[評価の工夫]</p> <p>1時間の重点評価項目を定め、学習カード・行動観察から見とり、次の学習に生かす。</p>	

<p><評価・修正></p> <p>[評価]体づくり運動や固定遊具を使った遊び、機械器具を使った遊びに取り組むことで、今まで体験したことがない動きや運動を体験することができた。さらに、上手にできるようになろうと友達ともかかわり合いながら技能を高める様子が見られた。</p> <p>[修正]運動が一過性ではなく、日常化ができるよう休み時間での運動の推進を声かけしていく。</p>
--